

## 日本証券奨学財団からの昭和59年度研究調査助成募集について

日本証券奨学財団より、大学における個人またはグループの研究者に対する研究調査助成の募集がきています。

助成の対象部門は、法律学、経済学、社会学、理学および工学ですが、理学および工学については、エネルギー問題および環境問題に関するものが重視されています。

申請書提出期間は、昭和59年3月1日から4月16日までで、希望者は申請書用紙および詳しいことを下記担当

理事までお問い合わせ下さい。ただし、助成を受けられるのは、大学で研究に従事している者に限られている点に御注意下さい（なお、特に若く有為な研究者の発掘を考えているとのことです）。

記

〒305 茨城県筑波郡谷田部町長峰 1-1

気象研究所 竹内 清秀

(TEL. 0298-51-7111)

## 月例会「南極圏の気象（仮称）」発足についてのご案内

このたび南極圏の気象を考える研究会を日本気象学会内の月例会として発足させることになりました。数年前までは、気象学会内に「南極委員会」が設けられ、学会としても南極の気象を考える場がありました。しかし、この委員会は、南極における気象研究観測の再開をめざすことを目的としていたため、国立極地研究所の設立後、気象の研究観測が次第に充実し軌道にのりはじめると共に、学会内での組織だった活動は自然消滅し、1982年、名実ともに終了しています。

近年、地球上の気象・気候をグローバルな観点で議論する必要が生じています。1986年から計画されているWCRPも、このような要請の一端となっています。南極大陸や南半球の気象も、例えば海水面積の変動や南方振動にみられるように、北半球のさらに日本の気象・気候にとっても無視できないものになっています。

そこで、南極圏を単に南極としてではなく、南半球の一部、あるいは地球の極地の一つとして位置づけたグローバルな視点から議論する月例会「南極圏の気象」を発足させたいと思います。南極圏の気象・気候全般について、現在の、そして将来の問題、課題は何であるか、を広く考えていく研究会としたいと思います。ふるってご参加下さい。

具体的には、年1～2回、春・秋季大会時等に、各回ごとにテーマを絞り研究会を開催し、南極観測隊の観測結果や観測計画の紹介等を含むレビューや研究成果を2～3、話題提供していただき、議論を行う予定です。

代表：菊地勝弘（北大・理）

幹事：石川信敬（北大・低温研）、伊藤朋之（気象研）、大畑哲夫（名大・水圏研）、安成哲三（筑波大・地球科学系）、山内 恭（極地研）

### 第1回月例会「南極圏の気象」のお知らせ

日時 昭和59年5月22日（火）17:00～20:00

場所 気象庁、第1会議室

#### プログラム

月例会発足の挨拶 菊地 勝弘

話題提供

南極の放射収支 山内 恭

南半球の大循環の特徴

廣田 勇

南極 MAP 成層圏エアロゾル観測報告 岩坂 泰信

総合討論

連絡先 国立極地研究所 山内 恭（幹事）

TEL. 03 (962) 4711 内線 451

1984年3月

65